

避難所のTKB48+Wを進めましょう

トイレ キッチン ベッド

ウォーム
暖房

二〇二五年となりました。みなさんはどんな新年を迎えられましたか？
一月には臨時市議会が行われ、国が地方自治体に配分した物価高騰対策の交付金の使い方について議案が出されます。2月末からはいよいよ、R7年度の予算審議です。私は、共産党議員団の代表質問を担当します。その大きなテーマの一つは防災です。

TKB48をご存じですか

「日本の防災の極端に遅れているところは、命を守れば良いと言わんばかりの避難所の在り方です。体育館などに大勢が雑魚寝のスタイルの避難場所が変わらず今も続いています。食事もお弁当やおにぎり、パンなどがメインとなっています。確かに段ボールベッドを置いたり、プライバシーや人権保護の点からの敷居や間仕切りなども導入されつつありますが、おおもと変わっていません。これに対して世界では、家族ごとにテントなどでプライバシーを保護して、雑魚寝はしない。食事は48時間程度で毎食、あたたかい食事を提供できるようにするなどが、当たり前になりつつあります。

これは、先の12月議会の私の一般質問で避難所の改善を市長に提言した部分です。

イタリア中部地震では、発生から48時間以内で広くて掃除がしやすいコンテナ型トイレを整備、家族ごとにテントとベッドを支給。被災直後から温かいパスタも。ボランティア団体が「キッチンカー」を準備し、調理師が調理しました。

これが「TKB48」です。



避難所の前提は、W

では、市として何から始めるべきでしょうか。まず暖房器具は公の責任で置きましよう。

TKB48への注目から、改めて見直されているキャッチコピーは「TKB48+W」です。Wはウォーム（暖房）、暖房機器を確保することです。

暖房がなければ「着の身着のまま」で逃



げてきた人の命すら守れない厳寒期があります。避難者が十分な準備をしていたとしても、自助での限界があるのが防寒です。市内の避難施設で暖房器具があるのはほんのわずかです。体を保温するアルミシートも全く足りません。

津波避難施設の整備とともに、ペットも一緒に避難できる避難所の問題など、避難所の改善に取り組みます。

これは基本的人権にかかわる問題であり、健康に直結する問題です。我慢して当然ということはありません。

